どうして？ どうしたら？ 何のために？

大阪大学名誉教授　鷲　尾　健　三

これでよいのかとか，どうしてだろうかなどと思うことが，近頃，ますますふえて来た．世の中で承認され支持されていることに，どうして？と疑うのは，自分の方がおかしいのではないかと思うことさえある．

× × ×

ラーメンの勉強をしていた昔，親友の研究者から，お前は文献の読み方が足りないと忠告されたことがある．しかし，当時は，ちょっとラーメンを噛ると，何か新味を持った方法を工夫することが出来，論文が書けた．だから，ラーメン研究者は建築構造研究の初年兵係だと，ひがんで見たこともある．また，そんな論文をかき集めていたんでは，それだけで一生が過ぎてしまいそうでもあった．しかし，誰かがやらねばなるまいと思いなおして，論文の整理・整頓を始めたら，仲間の研究者から，体系的研究だという批評をいただいた．しかし，うんざりでもう一度やる元気は今はない．ところが，技術革新の現在，新しい情報が，あらゆる方面でどんどん ラーメン の論文以上に 沢山 出て来ている．どうしたら，よいのだろうか．

× × ×

教えることがふえて来て，大学４年間では足りないから，大学院でも教えようという話を聞いたことがある．技術革新で，新しいことがどんどんふえて来たら，どうなるのだろうか．まさか，一生学校でという訳にもいくまい．

ところで，アメリカでの研究だということだったが，この技術革新・情報過剰時代には，大学で覚えたことが卒業後役立つ年限は，だんだん短くなって，ついには１年位になってしまうだろうというのがあった．どうせ大して役に立たないのなら，大学で粘っていても仕方がないともいえる．卒業後一生のドロナワ式勉強こそが解決策なのだろうか．一体，大学とは，何をするところなのかしら．

× × ×

どうせ覚えても何時かは忘れるし，卒業後すぐに役に立たなくなるのだったら，学校での教育とは，何をすることなのだろうか．

大学は，研究と教育の場だといわれる．しかし，まだ未確定の，社会の最先端・最新のことは，どういう風に教えられるのだろうか？悪戦苦闘する研究者の姿を見せるより外に手はないのではないか．同じく研究はしていても大学とはちがうといわれている会社の研究所でさえ，研究の仕事自身が，知らぬ間に後継者を育てていることを思うと，大学は，やはり，教育の場であり，その研究は，本来は，教育の為のものだと割切った方が，よさそうに思える．どうせ時代と共に陳腐化するその研究成果でも，学生に眼を見はらせ，深く焼きつけた印象こそが，永遠に残る教育成果のしるしではなかろうか．

× × ×

工業高校や工業高専は，一般教養科目の時間数が少いから，卒業生の教養不足が目立つといわれている．しかし技術者の教養とは，そんな時間数だけで解決されるようなものだろうか．技術者は，因果律を前提とした過去の知識だけを頼りに，刻々変転する現実社会の難局に対面して，単に，こうなるはずだという以外は全くわからないままで，しかも，思わぬことが何時起るかもわからないと覚悟しながら，自己の責任において，主体的に決断し，行動しなければならない．この技術者精神を発揮出来る資質こそが，真の教養に通ずるものではなかろうか．どうも，これを身につけさせることは，生やさしいことではないはずである．

× × ×

小さい孫達は，すぐ，なあぜ？と聞いて来るどうして，大人になるほど？？？……？